

# コロナ時代における 「誰ひとり取り残さない」政策とは

## G7・G20に向けた市民社会の提言

2021年6月8日（火）14:00-16:00  
オンライン開催（zoomウェビナー）

本年（2021年）の**G7サミット**はイギリス政府が議長国となり、6月11～13日にコーンウォールで開催されます。昨年（2020年）は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大により正式な会合が開かれなかったため、2年ぶりです。

サミットでの議論は、事前に各国首脳個人代表（シェルパ、サブシェルパ）が中心となって議題が調整されるとともに、関係閣僚会議や作業部会でのテーマ別の議論や幅広いステークホルダーによるエンゲージメント・グループとの対話を通じて形成されます。エンゲージメント・グループのうち、市民社会組織（CSO）が中心となるのが、**C7（Civil Society 7）**であり、日本では国際協力NGOセンターとSDGs市民社会ネットワークが中心となって参加しています。

サミットに先立ち、エンゲージメント・グループが独自の「サミット」を開催し、G7諸国に対して様々な提言を行っています。日本でも2016年のG7伊勢志摩サミット、2019年のG20大阪サミットの際に開催されました。今年のG7に向けては、**C7サミット**が4月19-20日、世界の女性たちによる**W7（Women 7）サミット**が4月21-22日に行われ、日本の市民社会も参加しました。

また、G7諸国に加え、韓国、中国、インドネシア、インド、サウジアラビア、トルコ、豪州、南アフリカ、メキシコ、ブラジル、アルゼンチン、ロシアおよびEUが参加する**G20サミット**は、イタリア政府が議長国となり、10月30～31日にローマで開催されます。

このたび、イギリスG7サミットおよびイタリアG20サミットに向けて、日本の市民社会による提言や政府への働きかけ、そして、世界の市民社会の動きを報告し、サミットで予定されている議題内容について共有するとともに、2023年に再び日本政府がG7の議長国となることを見据え、持続可能な開発や「誰一人取り残さない」援助のあり方などについて、幅広い議論を喚起すべく、公開イベントを企画しました。

多くの方の参加をお待ちしています。

### 【プログラム】

- 1.開会挨拶
- 2.鈴木浩・外務省外務審議官（経済）からのメッセージ（代読）
- 3.C7プロセスの全体像、政府との対話、来年以降および次回の日本開催に向けて
- 4.C7サミットを踏まえたG7への提言
- 5.W7サミットを踏まえたG7への提言
- 6.G20に向けた市民社会の動き
- 7.質疑応答
- 8.閉会挨拶

【お問い合わせ】 特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター  
janic-advocacy@janic.org（堀内）



**参加登録**  
はこちらから